

安産を願う風習

県内各地には、安産を祈願するとともに、出産後にお礼参りをする昔からの風習があります。



勝願寺の地蔵けやき（鹿沼市）



延生地蔵尊（城興寺 芳賀町）
（城興寺写真：「とちぎの百様」より）

～とちぎ人の想い～

私の母は、延生地蔵尊でお参りし、安産祈願をしました。双子である私たちを出産する時に、場合によってはどちらかを諦めなければならぬと言われましたが、無事出産できました。私たちも、今ではそれぞれに子どもが生まれ、元気にすくすくと育っています。

〈安産を願う風習の例〉

- 勝願寺（鹿沼市）の地蔵けやきには、二体のお地蔵さまがまつられています。お地蔵さまは、「子育て地蔵」、「子さずけ地蔵」と呼ばれており、身につけている赤いおかけを妊婦さんが授かり、出産の後には、赤ちゃんにそのおかけをつけて、健康を祈ります。その後、感謝を込めて赤い布でおかけを縫い、お礼参りとしてお地蔵さんにつける風習があります。
- 延生地蔵尊（芳賀町）は、安産・子育ての守り神です。安産のお祈りをする時、御札が授けられますが、御札を挟んでいる竹に節があれば男の子、節がなければ女の子が生まれるといういわれがあります。出産の後には、お礼参りをします。
- 将棋の駒である「香車」を興雲律院（日光市）などへ納める人もいます。香車は、まっすぐにしか進めない駒であるため、赤ちゃんが産道をまっすぐに進んで安産になるようにとの願いが込められています。
- 妊婦さんやその家族に、打上花火殻を安産・子育てのお守りとして手渡す地域もあります。貰った人は、子どもが周りから祝福されて生まれてくることに感激をするようです。